

災害支援ナース活動報告書

報告者：古山 未来

所属施設：県立がんセンター新潟病院

報告月日：令和 6年 1月 31日

活動日	1月12日(金) ～ 1月15日(月)
活動場所	施設名 正院小学校
活動内容	<p>・避難者の健康チェック。午前と午後の2回実施。有症状者(発熱、咳、咽頭痛など)には市販薬の配布を行う。3日分ほどお渡しする。要観察者はメンバー内で情報共有し、連日注意して観察していく。PWJ看護師へ情報提供し、診察が必要な避難者のピックアップを行う。</p> <p>・本部へも直接有症状者が訪室するため、その対応を実施。日中倒壊した家を見に行く方もおり、けがをして戻ってくる方もいるため創傷処置の方も数名いた。連日継続して処置を行った。</p> <p>・コロナウイルス陽性の方も数名おり、活動中にも陽性者が出たため、部屋の移動や、ゾーニングを実施。避者所へもマスクの着用や手指消毒の声かけを行った。</p> <p>・活動中に2次避難で計60名の方が退去したため、その後の部屋移動を行った。小学校の再開に併い、3Fを空ける必要もあったため、3Fの避難者を2F、1Fへ移動してもらうなど大幅な部屋の再編成が必要となった。避難者へ説明を行いながら部屋移動に協力していただき、3Fを空けることができた。</p> <p>・防災士やボランティアの方と協力しながらトイレ清掃やうがい箱の交換を行った。水は出ないためトイレは簡易トイレが各階にあり。凝固剤入りの袋の準備や補充を実施。外には仮設トイレがあり、流すための水の補充を行った。(ペットボトルに水が入り置いてある)</p> <p>うがい薬の作成・交換を実施。うがい箱の交換を定期的に行った。</p> <p>・正院小学校では自立している方が多い印象だったが、杖歩行の方なども数名みられた。食事の配膳に取りに来ることができない方には、声をかけて炊き出しをお渡しに行った。また、PWJの診療の際には部屋から診療室までの送迎を行った。</p> <p>・夜間はメンバーのうち1人が交替しながら連日当番となり、夜間に本部へ避難者が症状を訴えた際に電話で呼び出されることになっていた。活動中は1度呼び出しがあった。</p>
所感	<p>・被災後約2週間であり、疲労や環境の変化などから体調不良を訴える避難者が多い印象だった。特に風邪症状(咳、咽頭痛、発熱)を訴える方が多く、総合かぜ薬などが不足しやすくなっていた。また、持病等の悪化も懸念される時期であり、被災し普段内服している薬を持たずに家を出てきたという方も多くいることが聞きとりで判明した。薬を持ってきていないことに気づいていなかった方や、持ってきていないことに気づいていてもそのままにしていたというケースもあった。そのような事に早期に気づくことができ、災害関連死へ繋がらないようにするためにも日々の健康状態の観察や避難者への声かけを積極的に行うことが大切だと感じた。また、避難者も忙しくしているスタッフを見て、声をかけにくく、体調が悪くても遠慮をせずにいる場合もあるかもしれないため、こちらからの声かけやコミュニケーションを取りやすい雰囲気づくりも大切になってくるのではないかと感じた。そして現場では多職種が互いに連絡、相談し合いながら、いかに避難者が安全に安心して生活することができるのか、1人1人が責任感を持って活動をしていると感じられた。今回が初めての災害支援であり、もっとこうしたらよかったと反省する点が多くあるが、被災地での看護師の役割を身を持って学ぶことができたのは貴重な体験となった。</p>